

団体名 <b>糸満市立西崎小学校</b>	連絡先 TEL : <b>098-992-3451</b> Eメール : <b>nisisyo@nishizakis.city.itoman.okinawa.jp</b>
-------------------------	--

## 1 実践事項 ( ② )

タイトル : 「自己肯定感を育む『魅力ある学校づくり』の取組」

## 2 実践内容

- 1 支持的風土の学級・学校づくり
- 2 子ども主体の学び合い高め合う授業づくり
- 3 地域と共にある学校づくり

## 3 説明資料 (写真、グラフ、図、表など)

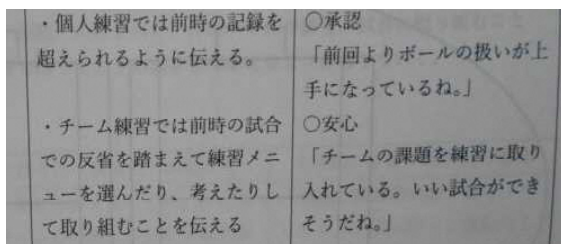
### 1 支持的風土の学級・学校づくり

本校児童の課題として、「自己肯定感」が低いことが挙げられていたが、学校全体での継続した取組により、今年度の県児童質問紙調査（12月実施）では、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目で肯定的回答が91.8%と大きく向上した。

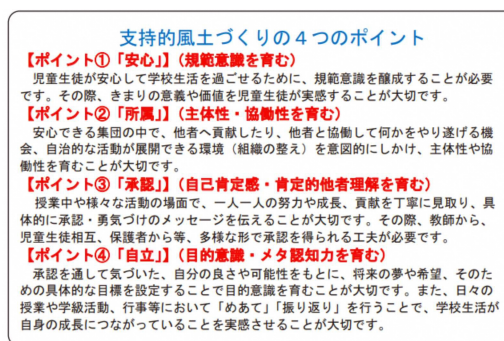
一方で、学級での児童間トラブルや不登校児が多いという解決しなければならない課題もある。よって、自己肯定感を高める取組を継続し、児童が安心して学校に登校し、主体的に学習活動に取り組めるような支援を教育活動全体を通して行っていく必要がある。

#### (1) 支持的風土の醸成を意識した授業づくり

- ・全ての授業において、教師は児童の自己肯定感を育む声掛けを意識的に行った。
- ・支持的風土づくりの4つのポイントを取り入れた授業づくりを行った。



【図1 自己肯定感を高める声掛けを教室や指導案に記す】



【図2 支持的風土づくりの4つのポイント】

#### (2) 計画委員会による学校テーマの設定と学校テーマに連動した学級目標の設定

- ・学校テーマを、計画委員会を中心に各学級代表の話し合いにより設定し、それを基に各学級が学級目標を設定した。



【図3 みんなでできた学校目標】

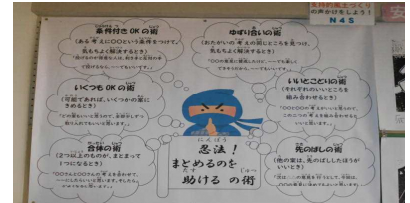


【図4 学校目標を受けた学級目標】

- (3) 校内研における話し合い活動の充実に向けた指導の工夫
- ・「自ら課題をみつけ、解決しようとする児童の育成～話し合い活動の合意形成の場面を通して～」のテーマのもと、一人一人の考えを大切に合意形成を図るための支援について研究を深めた。
  - ・特別活動の学級会を中心として、全教科の学習で合意形成を図るための「術」を意識した授業を行った。
- 本年度は、児童が学校生活の中から課題を見つけ、話し合い活動で課題を解決していく指導の工夫について研究を深めた。



【図5 学級会の様子】



【図6 合意形成を図る「術」】

## 2 子ども主体の学び合い高め合う授業づくり

昨年度実施の全国学力学習状況調査や県学習の確かめ等の結果から、本校児童は県の平均正答率と比較して低い傾向にあり、特に自分の考えを論理的に表現する問題に課題が見られる。

また、県児童質問紙の結果から「家で計画を立てて勉強していますか」の質問に対して肯定的に答えた児童の割合が県全体の平均より低い結果となっている。

これらのことから、児童が論理的に自分の考えを表現することや、基礎的・基本的内容の定着を図るための授業改善を推進する必要がある。また、児童が自ら計画を立てて学習を行うことができるように支援していく必要がある。

### (1) 学習を支える力の1つとしての、学習規律・生活規律の徹底

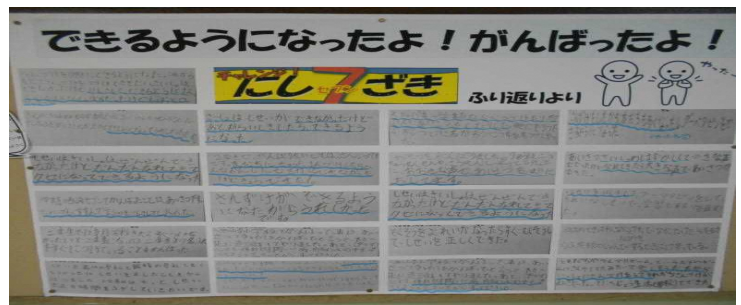
- ・西崎セブンの実施

※「めあて→実践→振り返り（課題把握）→実践」のサイクルの確立

※本年度は、「さんづけ」を重点項目として取り組んだ。



【図7 西崎セブン校内掲示】



【図8 西崎セブン児童振り返りの校内掲示】

### (2) 論理的思考力・表現力を育むために、「問い」を重視した授業改善の推進

- ・学校 OJT による授業改善の推進。
- ・授業の中で児童の思考の時間を確保した。
- ・授業の中で自分の考えをもとに、他者と交流する時間を確保した。

### (3) 自立した学習者の育成

- ・「自学自習ガイド」を参考にキャリア教育の視点を盛り込んだ家庭学習と授業の連携を図る取組を行った。
- ・児童の発達段階に応じて、「け・テ・ぶ・れ」（計画・テスト・分析・練習）のサイクルによる家庭学習に全学年で取り組んだ。



【図9 「け・テ・ぶ・れ」の学級掲示】

### 3 地域と共にある学校づくり

本校では、PTA 活動（美化作業・親子レク等）や朝の交通安全指導、休業日の灌水等に地域や保護者の協力を得ている。さらに、学校支援本部事業を活用した地域人材の活用や外部講師を招いての学習を積極的に行っている。

学校運営協議会を年5回開催し、学校の様子について伝えたり、意見を求めたりしているが、学校側からの報告等中心になってしまい、学校運営協議会の趣旨に沿った活動になっていない等の課題もある。

- (1) 学校支援本部事業を活用した学習ボランティアの活用
  - ・ミシンや書道の学習やクラブ活動において児童への支援をお願いした。
- (2) 地域人材を活用した読み聞かせの実施及び特別授業の実施
  - ・低学年児童へ朝の読み聞かせの実施。
  - ・人権教育やキャリア教育、身体の健康に関する講話・特別授業の実施。
- (3) 学校運営協議会（年5回）の開催



【写真 10 地域人材の活】



【写真 11 外部講師による特別授業】



【写真 12 学校運営協議会の様子】

### 4 成果

- 県児童質問紙調査（12月実施）の「学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことはありますか」「あなたの学級では、学校生活をよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法をきめていますか」との2項目について、肯定的な回答の割合が、7月実施よりも高く、県平均を上回った。
- 話し合い活動を積み重ねることで、他者の考えを大切にしながら自分の意見を主張する方法を児童が身に付けつつある。
- 西崎セブンの継続的な取り組みにより、児童の学習規律や生活規律の習慣化が図れた。
- 「け・テ・ぶ・れ」の取り組みを通して、目的を持ち計画的に学習しようとする児童が見られるようになった。
- 地域人材を積極的に活用することで、児童への学習支援の充実が図れた。

### 5 課題

- 西崎セブンの効果的・機能的な実施について改善を図る必要がある。
- 話し合い活動で身に付けたスキルを他教科や日常生活でも活用できるように指導を工夫する必要がある。
- 学校運営協議会の組織づくりや活動の活性化を図る必要がある。